

PART 7

「専門家に聞く⑤」財務コンサルタント、(株)パック・エクスイノベーション「吉松真」
経営を安定させる財務テク

人材紹介企業の(株)パック・エックスのグループ会社である(株)パック・エクスイノベーションは、ホールの財務面をサポートするコンサル企業だ。経営を安定させるため、財務面でホールを救うサバイバル術はあるのか？

開口一番「いい話ない？」
 半分冗談で半分本気

「財務的に苦しいパチンコホール様は、会社を畳む前にやるべきことがあります」

そう語るのは(株)パック・エクスイノベーションで、ホールの財務コンサルタントとして活躍する吉松真氏だ。同社は財務体質改善の方法をレクチャーしたり、国から補助される助成金を受ける方法、固定費などの削減につい

て、総合的にコンサルティングする。吉松氏はその中でもホールの固定費に目をつける。

「地代家賃や人件費、社会保険などの毎月支払っているものを見直すことで、まだお金を生み出せる会社は多いと思います」

いま、経営が苦しいと感じる会社の多くは、吉松氏の言葉を借りれば、「自分の財布で回せていない」企業だという。意外なことに複数店舗を持つグループ店よりも、単店の方が手堅い場合も少なくないのだとか。

「(単店の場合)パチンコ店1店舗と飲食店やカラオケ店など他業種で展開しています。そういう店舗の場合、土地や建物を所有しているオーナー様が多い。とはいえ、1店舗で地代も

家賃も払っているとしたらかなり苦しいと思います」

一方、多店舗展開しているグループへは、比較的融資のハードルが低い信用金庫系の金融機関が業界枠を持っているため、そうした情報を提供している。

職業柄、多くのオーナーと触れ合う吉松氏に、オーナーたちはパチンコのビジネスについてどう感じているかを聞いた。もう諦めてしまっているのだろうか。

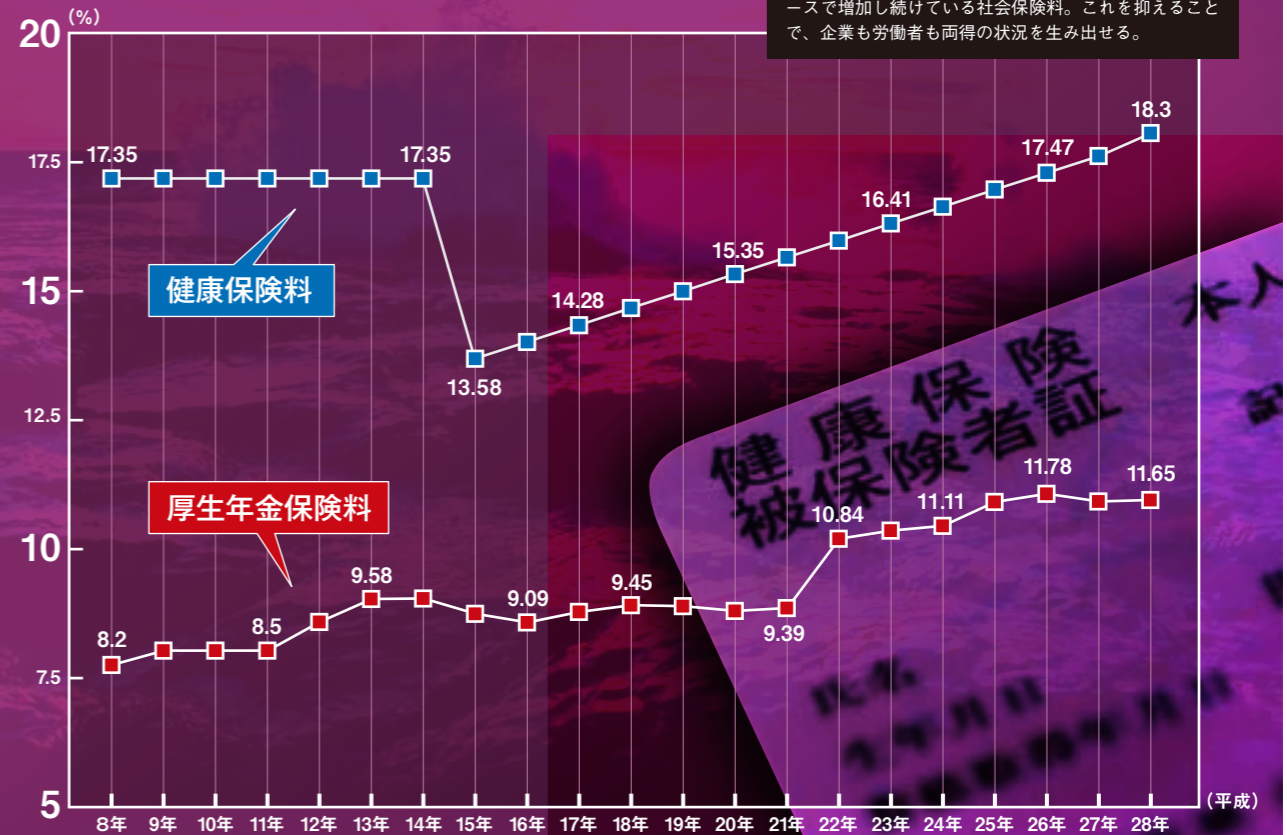
「オーナー様に呼ばれると、第一声が『最近うちも厳しいんだけど、いい話ない?』だったりします。半分冗談で、半分本気なんです。ただ、本気でやめようとしている会社はどこにも情報を漏らさずにやめる傾向があるので、当社に連絡があるということはまだ諦めていないのでしょう」

社会保険料の見直しをすれば100人規模で1000万円!?

冒頭に吉松氏が「やるべきことがある」と話したことの一つに、社会保険の見直しがある。これについて詳しく聞いた。

「健康保険や厚生年金保険など社会保険料は増加し続けており、

(図) 健康保険料と厚生年金保険料の推移



健康保険料と厚生年金保険料の推移をグラフ化したもの。徐々に増え続ける消費税などよりも、よほどハイペースで増加し続けている社会保険料。これを抑えることで、企業も労働者も両得の状況を生み出せる。

対策する必要があります。ポイントは従業員にとって不利益にならないようにすること。仕組みを変えるだけで、従業員100人規模の会社で、年間1000万円近いコスト削減効果があります」

社会保険料の支払額は、4~6月の給与額届出と賞与額など報酬の届出で決まる。会社の考え方や経営方針によって難易度は変化しますが、社会保険料を抑えるための一般的な事例は、「賞与の支払い方を変更する」「4~6月の残業をなくす」「4~6月に歩合給を出さない」「社員の退職日は末日の前日にする」「定期昇給の時期を4~6

月を外し7月にする」「借上社宅制度の導入」「通勤費の支払い方法を変える」など。今までとはまったく異なる仕組みの導入により、大幅なコスト削減を実現している会社もある。変更に伴い、労使の合意や就業規則の見直し、給料現実の整備など専門的な知識が必要となる。

「固定費の2割は落とせる」コスト削減は専門家に任せよう

このほかにも、国からもらえる助成金などはしっかり活用していくべきだと吉松氏は言う。

「個人では相続税の還付、法人では固定資産税の過払い金の返還請求などがあります。固定資産税の計算方法はミスが多く、総務省の調査では、課税誤りがあった市町村の数が全国1544団体のうち97%あると発表されています」

最後に会社を存続させる財務面でのアドバイスをもらった。

「現状の固定費の2割は落ちると思って情報を集めてみてはいかがでしょうか。コスト削減は自社内の人がやると、精神的に苦しいことも多いです。専門家に任せれば削減効果を生み出した上で、知識も身につくので一石二鳥です」

PROFILE

(株)パック・エクスイノベーション CC事業部
 吉松真(よしまつ・しん) ...
 2014年10月に、(株)パック・エックスがホールディングス化した際に、(株)パック・エクスイノベーションが設立。吉松氏は財務コンサルタントとして、多くのホールへアドバイスを

